



## 富山から伝わり130年 札幌の伝統芸能に

丘珠獅子舞は、富山県から丘珠地区に入植した人々が故郷の獅子舞の道具を持ち込んだことで始まり、明治25年の丘珠神社創建の際に、初めて舞が奉納されました。以来、五穀豊穡や無病息災、家内安全などを祈願して、丘珠神社へ舞が奉納されてきました。

社会情勢の変化などで、昭和37年から3年間は舞が中断していましたが、当時の丘珠連合町内会長などが音頭を取り、昭和40年に「丘珠獅子舞保存会」(※)を発足、丘珠獅子舞を再興しました。昭和49年には札幌市無形文化財第一号に指定され、現在では札幌を代表する伝統芸能として親しまれています。

毎年9月の丘珠神社秋季例祭には、舞を一目見ようと多くの人が集まっていますが、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の影響で舞の奉納が中止されており、今年の舞も取りやめになりました。

※現在は小学生から70代まで約60人が所属し、舞の練習や伝承活動などをしています。



佐々木幸順 丘珠獅子舞保存会会長。高校卒業後50年以上、丘珠獅子舞に携わってきました。

## 今

まで、様々な壁を乗り越えながら受け継がれてきた丘珠獅子舞。地域での役割や現状について、丘珠獅子舞保存会の佐々木幸順会長にお話しを聞きました。

### 娯楽から地域をつなぐ役割に

明治時代に現在の富山県からの入植者たちが始めた丘珠獅子舞。「娯楽もない時代。昭和の前半頃までは、娯楽として、あとは故郷をしのんで獅子舞をやりたいという気持ちが大きかったのでは」と佐々木会長は話します。その後は、幅広い年代が集い、地域をつなぐ「核」のような役割も果たしてきました。「若いころは」獅子舞をやっていないと地域のことが分からないなんて言われていましたよ」と振り返ります。

### 若い担い手不足、伝承の課題

近年は、就職などを機に丘珠を離れる若者や、地元に残っていても仕事や家庭の都合で参加をためらう若者が多く、若い担い手不足が深刻です。加え

て、コロナ禍で活動を休止しているため、「せっかく自分なりの『あや』をつけて舞えるようになった人も、また振り出しから」と、伝承への影響を懸念しています。

逆風の中でも、佐々木会長は、丘珠獅子舞を次の世代に伝えていきたいという思いを語ります。「9月の例祭には、獅子舞を見に来る人が大勢いる。札幌市の無形文化財第一号だということも、重しになっているかな。解散するわけにはいかないよ」。



①結成当初(昭和40年9月5日秋季例祭)の丘珠獅子舞保存会。(丘珠獅子舞保存会顧問の山田治仁さん提供)  
②厄払いの意味を込めて、獅子に子どもの頭をかませる。厄払いをするために、子どもを連れて丘珠に帰省する人も。



# 未

来を担う子どもたちへ舞の指導をしている竹田裕さんに、子どもたちの練習や、次世代へ思うことについて聞きました。

## 子どもの成長が楽しみに

丘珠獅子舞では、獅子の前で剣や扇などを持って舞う「獅子取り」を、小学生と中学生が担います。現在所属している獅子取りは6人。指導者である「獅子取長」の竹田さんも、子どもの頃は獅子取りでした。「もう獅子舞が好きで好きで。踊りや笛の高揚感が好きでしたね」。指導者となった今では、「子どもたちが、自分よりうまくなっていくのを見るのが楽しいです」と話します。



## 親子で丘珠獅子舞に携わる 竹田裕さん・長男の朔玖さん

竹田裕さんの長男で中学校2年生の朔玖さんも丘珠獅子舞保存会のメンバーです。「3歳頃から舞を教えていました」と裕さん。小学校1年生で獅子取りとして初舞台を踏んで以来、頭振りなどを担当する父と親子で共演しています。「1つ上の先輩と同じくらいまくなりたい、切れのある舞をしたい」。それが朔玖さんの、次の丘珠神社秋季例祭での目標です。

## 頭振りの練習

ちょっとのぞき見!

今年の舞の奉納は取りやめになりましたが、動きを忘れないようにと、7月中旬、約2年ぶりに「頭振り」の練習がありました。



練習用の獅子頭や、動きを再現できる木製の模型で、演目ごとに動きを確認。

片手で獅子頭を持ち、もう片方の手で、顎を動かします。

練習用の3代目獅子頭の重さは5kg!  
(本番に使う5代目は、約10kgも!!)



上下左右、前に後ろにと激しい動き。時々「ゆっくりゆっくり!」という指導の声が飛びます。

「滑らかに、軽やかに、雄々しく」振る。「腕に力が入るとガクガクとした動きになるため、体全体を使うことが大切」と、獅子頭長の山本幹哉さん。



ハードな練習の後は疲労困憊の様子。「2年ぶりに舞うと、やはり重たく感じますね」(三澤哲也さん)「笛の音と合わせるタイミングをだいぶ忘れてしまっていたのですが、久しぶりの練習は楽しいです」(斉藤恵一さん)と話していました。

## コロナ禍も乗り越え、次世代へ

獅子取りの練習は、コロナ禍で2年以上休止しています。動きを忘れてしまいかもしれない、学年が上がるにつれて難易度が高くなる舞についていけるだろうか、など心配事は尽きません。それでも、次に舞える日に備え映像を見るなどし、舞を確認するように指導しています。今のコロナ禍を含め、伝承にはさまざまな壁がありますが、竹田さんは「和気あいあいと楽しくできるような形で残ってくれば」と思います。なくさないことが一番」と次世代への思いを話します。

## 歴代の獅子頭をご紹介します

### ◆初代



明治時代、富山県から入植した人たちによって持ち込まれる。丘珠小学校郷土資料室で展示。重さ：4kg

### ◆二代目

明治35年から昭和40年まで、活躍。札幌村郷土記念館で展示。重さ：9.6kg



### ◆三代目



丘珠神社から贈られた獅子頭。現在も、練習用として活躍中。重さ：5kg

### ◆四代目

平成元年までの約25年間活躍。現在は丘珠まちづくりセンターで展示。重さ：9.6kg



### ◆五代目 ←NOW!



丘珠獅子舞創設100年を記念して、当時の丘珠獅子舞保存会会長から寄贈。重さ：9.6kg

※獅子頭の写真はいずれも丘珠獅子舞保存会提供。

